

統計豆辞典

「貯蓄率」について

家計が、税金などを引いた手取り収入である「可処分所得」からどれだけ貯蓄に回したかを示した割合が貯蓄率です。

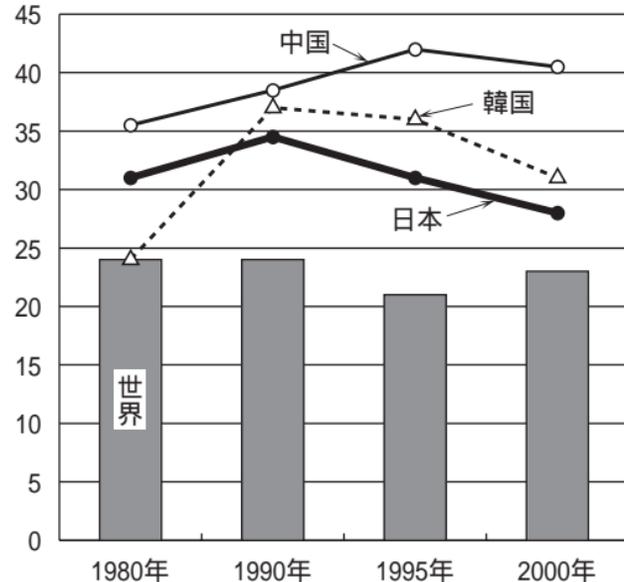
貯蓄大国ニッポンと揶揄された我が国ですが、内閣府が毎年作成している国の家計簿にあたる「国民経済計算」によると、最近の家計可処分所得が平成9年をピークに減少を続けており、それに伴い、平成14年度の貯蓄率は6.2%と前年度に引き続き過去最低を更新しました。

貯蓄率減少の理由としては、(1) 若年層の雇用情勢の悪化(少子高齢化にともない高貯蓄率の若年層が減少し、高齢者が増加)(2) 可処分所得の減少(賃金の減少、特にボーナスの減少が影響大。及び利子収入の減少)(3) 消費の慣性効果(所得の減少に比例して消費を落とせない現象)等があげられます。

国民が貯蓄したお金(余剰資金)は国債や預金などを通じ、国や企業の投資原資となってきたこともあり、貯蓄率の低下が、ひいては経済成長の阻害要因になりうることも指摘され始めています。

各国の貯蓄率の推移

(対GDP比、%)



資料出所：世界銀行「World Development Indicators」